

国労「フクシマ」交流学習会

国労水戸

国労水戸地方本部
 水戸市中央1-1-11
 ENYビル2F
 029-221-4008
 発行責任者 塚原良雄
 編集責任者 坂下 司

再稼働反対・脱原発、継続して運動をして行こう

責任の所在は何処に

11月29日、郡山市内において、第3回国労フクシマ交流学習会が開催されました。

塚原委員長から、川内原発が再稼働する。誰が責任をとるのか。学習交流から全国に訴えていく。主催者から坂口本部執行委員長から、9月からの運動を継続し、汚染土を何処に持っていくのか。安心して暮らせる

未来にしていこうと挨拶がありました。

講演、原発に関係する地本からの報告を受け、まとめとして甲状腺がんの検診を19歳以上に」と声を上げよう。原発事故の現状は昨日の視察でも明らか

国労フクシマ交流学習会



かに見て差別である。人の住むところも地域とのコミュニティもありません。未だに原発、放射能はコントロールされていません。政府の指導の下で責任を取らせる運動を行っていこう。

原発事故による現状と課題

学校現場より報告

日野 彰さんより大震災後の津波により救助を待っていた人も翌日に避難命令が出され、助けられ

たはずの命が原発により助けられなかった。スピーディの情報隠されて、放射能の拡散予測が知ら

ないままで、放射線量の高い地域に避難させられている。避難解除の学校は休校や統廃合に。親と離れて暮らす子供たちの心は不安定であり、教職員も子供のケアなどで疲弊し

第18代高校生平和大使

第18代高校生平和大使の鶴蒔かれんさん、鈴木愛望さんから報告受け、国連本部のジュネーブでの交流、署名活動について報告がありました。

唯一の被ばく国として核のない平和な再生可能なエネルギーを。平和の訴えを継続していくこと。若者が未来へ向けて生きていけるよう、異文化の国の人との交流、現状を知ることが必要です。世代を超えて、新たな活動の輪が広がっています。



シマの復興は進んでいないのが現状です。

水道事業より報告

学力向上が大切である。行政がいろいろな施策を押し付けているが、子供のことを本当に知っているのは教職員である。原発の事故の責任を明らかにすること。4年が過ぎるがフク

が売れている。店で商品として売られているので、安心感から売れ行きが良いとのこと。



水道事業所に勤務する瓜生 忠夫さんから、3・11大震災の時、断水になり水を配給していた。3日頃までは、ご苦労様と感謝されるが、それ以降は復旧が遅れ、苦情の電話がひっきりなしにかかって来ます。水道法による水質基準は放射性物質の基準がないので心配である。ペットボトル「ふくしまの水」

